

「地域日本語教室と日本語支援養成講座のアップデート」

高橋 佐代子

所属：京都府国際センター、京都にほんご Rings

1. 実践地域・課題・その背景の紹介

実践地域：京都府内

課題：① 地域日本語教室

支援者・学習者の交流を大切に「多文化共生」の意識もあるが、実際の支援は「1対1」「教科書中心」の支援で「教える—教えられる」という関係が長年続いている。学習者と対等に会話ができない、会話の仕方がわからないという悩みが聞かれる。

② 日本語支援ボランティア養成講座

各教室から要請を受けて行う日本語支援ボランティア養成講座カリキュラムには日本語基礎知識や「教科書の教え方」が入っていて「教える—教えられる」という支援につながっている。「対話」「コミュニケーション」「相互理解」等を軸にした養成講座の必要性は講師側も理解しているが、具体的にどうすればいいのか明確なビジョンがない。

③ 各自治体

京都府内の自治体の日本語支援への取り組みは優先順序が低い現状である。

課題の背景：知識不足↓

「日本語教育参照枠の理念」「対話交流型支援」など新しい地域日本語教室をめぐる枠組みや動きについての知識がないため、支援・養成講座を変えたいと思っても何を目指せばいいのかがわからない。

2. 実践活動：

- ① 「対話交流型支援」等について知識を得るために地域日本語教室支援者を対象とした研修を行う。
- ② 養成講座カリキュラム変更に向けて、今年度の養成講座終了後に各地域日本語教室・関係自治体を対象にアンケートを行う。第三者の視点から養成講座について意見をもらう。
- ③ 養成講座カリキュラム変更を検討し、「対話」「相互理解」「多文化共生」を軸にしたカリキュラムに変更する。受講者に地域に共に住む生活者としての外国人住民の現状と共生のための日本語教室の役割が伝わるようなカリキュラムに変更する。

3. 2025年8月～2025年2月実践活動報告

2025.8 2025年度日本語支援ボランティア養成講座（京都府内6市町）の初回（八幡市）開始

養成講座後アンケート(日本語教室向け・自治体向け)作成・実施・随時回収

2025.10 日本語支援ボランティア対象の研修実施決定

- ・2026年2月14日(土)
- ・主催:京都府国際センター、共催:京都にほんご Rings
- ・講師:萬浪絵理氏
- ・対象:地域において日本語支援ボランティアとして活動している方
- ・目的:「対話交流型支援」について知る



2025.12 研修に向けて広報開始

2025年度日本語支援ボランティア養成講座最終回(宇治田原町)終了

2026.1 京都にほんご Rings 養成講座担当講師(研修チーム)ミーティング

- ・議題:養成講座カリキュラム変更に向けて
- ・養成講座後アンケートの集計をし、意見を今後のカリキュラムに生かす
- ・他県で養成講座を担当されている方から講座の目的、内容などについて聞く研修会を行うことも決定

2026.2 日本語支援ボランティア対象の研修「地域における日本語支援～対話・協働・相互理解について考える～」実施

京都にほんご Rings 養成講座担当講師対象の研修会を実施予定
養成講座終了後アンケート集計結果の分析

4. コーディネーターの役割～持続可能な日本語教室を目指して～

- ① 地域日本語教室の活動が生活者としての外国人住民の視点に立った活動になるように、支援者・自治体と協力する。
- ② 地域の日本語支援者への敬意を忘れず支援者が無理なく活動を継続していけるように、必要に応じて教室運営や支援体制についてアドバイスをする。
- ③ 「対話」「相互理解」「多文化共生」の大切さを養成講座や研修を通じて地域日本語教室支援者や地域住民に伝える。
- ④ 日本語教室の「居場所」としての役割を念頭に外国人住民との共生を図る地域ぐるみの支援を考える。

5. 今後の課題: 外国人住民への日本語基礎教育の充実

日本で生活していくうえで日本語習得は欠かせず、そのためにも日本語基礎教育は必須だと考える。外国人住民が等しく日本語基礎教育の機会を得られる仕組み作りに取り組みたい。